

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970500662		
法人名	株式会社 サニーオーク		
事業所名	グループホーム 侑良の里		
所在地	奈良県橿原市木原町323-1		
自己評価作成日	平成27年12月4日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年12月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

耳成山の麓で自然に囲まれた静かな環境に位置し、毎日の日課である散歩や外気浴を楽しまれています。自主防災に参加し、グループホームの理解を深めて頂き災害時の地域との相互関係をふかめています。婦人会の協力を得て、毎年炊き出し祭を行い事業所のできることを伝えています。「あなたを大切にいたします」「穏やかに ゆったりと あなたらしく 最後まで共にくらしたい」を事業所の理念にスタッフ自身が入居したい、自分の親を入居させたいと思える施設作りに取り組んでいます。また看取りの際には、「その人らしさ」を最後まで尊重するよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者マンションを始め、訪問介護、デイサービス、小規模機能型居宅介護施設、グループホーム等の法人事業のこれまでの取り組みの中で、終末期ケアに重点を置いたグループホームの必要性を認識し、開設されたホームです。「穏やかに ゆったりと あなたらしく 最後まで共にくらしたい」を理念として掲げ、一人ひとりの性格、思いを十分把握し、本人が自分らしく過すためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は、本人の立場に立って追求されています。大和三山の一つ耳成山を眼前に臨み田畑と住宅が混在した静かな地域に立地し、バリアフリーが施され、馴染みの物、季節感、生活感や五感刺激及び利用者のプライバシーや動線に配慮した機能的な設えの建物です。スーパーや商店、公園等に出かけ、学校帰りの子ども達が立ち寄ってくれたり、地域の婦人会や自主防災としての「炊き出し」等で交流し、たくさんの人と地域資源との関係を築き支えられています。身体拘束をしないケアの実践に取り組み利用者の自由な暮らしを支援されています。家族会の開催を始め、介護相談員を受け入れ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりや、終末期の積極的な支援により、ホームと利用者や家族の信頼関係が構築されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時と毎月カンファレンスにて共有しており、玄関にも掲示している。尊厳を大切にさせて頂き、終末期ケアまでも視野に入れた上で「あなたを大切にいたします」「穏やかにゆったりとあなたらしく最後まで共に暮らしたい」を実践している	終末期ケアに重点を置いた理念を共有し確認されていますが、認知症になっても自分らしく有する力を発揮しながら、地域で暮らし続けることへの支援である地域密着型サービスの意義と理念との理解が課題です。	ホームが地域密着型サービスとして果たす役割と理念について、管理者やすべての職員で話し合い理解を深める取り組みを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に開門しており、散歩や外気浴で外出されている。地域の婦人会との交流があるので普段から獲れた野菜を頂いたりプレゼントしたりしている。	散歩時の声掛けや地域の行事に積極的に参加したり、ホームの行事に地域の人を招待するとともに、普段の暮らしの中で、近隣の人たちが差し入れや遊びに来たりする間柄が作られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の幼稚園、小学校に教育の一環として開放しており、中学校の職場体験も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の日常の様子、施設の取り組みを2ヶ月に1回の開催時に報告、その際に頂いた意見をカンファレンスなどで共有している。家族様ならではの視点もあり、気付きのきっかけにさせて頂いている。	会議は、利用者、家族、民生委員、介護相談員、市職員等の参加の下、2月に1回開催され、利用者やサービスの状況、評価への取り組み等について報告や話し合いが行われています。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、今後は地域住民の参加の働きかけを行うことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の訪問、三者間連絡会への参加、運営推進会議の開催などをきっかけにして侑良の里らしいゆったりとしたケアに触れて頂いている。	三者間連絡会や運営推進会議等の機会を捉え、市職員と連携できる関係を築く取り組みがなされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスや勉強会などの機会だけでなく、各職員の気付きや疑問を大切に入居者様の視点に立ちかえてケアにつなげる工夫をしている。	身体拘束をしないケアについて、勉強会や委員会等で話し合い、徹底が図られています。全ての職員は、身体拘束の内容とその弊害を正しく認識し、日中玄関を施錠することなく、利用者の自由な暮らしを支援されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	説明や勉強会だけに終わらせず、虐待に至る要因にも気を配り、管理者や職員同士で声をかけあって体調管理などにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されている入居者様もおられ、適宜カンファレンスで取り上げ、勉強会においても議題にあげて知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居される前に丁寧に重要事項説明書の説明させて頂き、納得頂いています。特に利用料金や医療連携対策には問い合わせも多い為、特に丁寧に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員からも入居者様に関わって頂き、意見を伺って反映につなげている。家族様等から意見、要望、苦情なども話しやすくする為にも普段からの会話、対応を大切にしている。	家族会の開催を始め、介護相談員の受け入れやたより等の他、面会時に常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見、要望等は検討し反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス、各委員会カンファレンス、毎朝の申し送り等で意見を話せるようにしている。日常のコミュニケーションから意見や提案につながる事も多く、気を配っている。	ケア会議等で、意見を聞くようにされています。日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、問いかけたり、聞き出したりされています。利用者と職員の馴染みの関係づくりに配慮し、職員が交代する場合は、引継ぎ期間を十分にトリスマーズに移行できるようにされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	二ヶ月に一回代表者と現場の管理者が話し合う場があり、管理者会議として現場環境の報告や改善策を話し合っておりより良い職場環境になるように話し合っており改善につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームとしての年間研修計画を定め、計画に沿って毎月の勉強会として開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との合同勉強会を開催しており、又、他事業所との合同行事なども機会を設け、交流を通じた気づきを大切にサービスの向上意欲につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安を和らげられるようにカンファレンスでも関係作りは重点をおいて話し合っています。反映につながるように気付きノートを作って「その時」にあった思いを拾うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランの新規作成時、また見直す際にも家族様に不安、要望等を確認しています。センター方式のケアプランを活用している事、内容を伝え、家族様にも記入して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当法人内の他事業所も視野に入れた検討から始めさせて頂き、聞き取り、相談の中で本人様や家族様の思いとの調整をさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、たたみ、清掃なども職員と一緒にさせて頂いている。食事と同じテーブルで同じものをいただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の帰宅願望には、家族様とのこまめな連絡、相談をさせて頂いている。家族様に過度な負担が生じないようにその都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居される前から大切にされていた人間関係が今も続いている利用者様もおられ、面会して下さいます。	地域に暮らす馴染みの知人・友人等との交流や、昔から利用している理美容院に行き続けられるよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活に職員から入居者様への関わりだけでなく、入居者様同士の触れ合い、会話を意識して平等な接遇を意識した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた入居者様もおられ、入居者様の情報提供をさせて頂いたり、必要なフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気軽に話しかけて頂けるユニットの環境作り に気を配っている。	本人が自分らしく暮らし続けることをチームで支えるための共通ツールを活用して、アセスメントをされています。日々のかかわりの中で、声を掛け、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居される前に家族様にセンター方式の説明をさせて頂き、生活歴などが把握できるように記入をして頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式をきっかけに現状を把握していくなかで出来る事と支援が必要な事を明確に把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員に担当を決めさせて頂き、3ヶ月毎に(必要に応じて適宜)カンファレンスで意見交換をしてプランにも反映させている。	本人や家族の意向を確認し、関係者の意見を参考に、職員間でカンファレンスを行い介護計画を作成されています。状態に変化がある時はもちろん、定期的にモニタリングを実施し、それに基づき見直し、現状に即した介護計画を作成されています。	介助項目を主とした介護計画を作成されていますが、更に、利用者の視点に立って地域でその人らしく暮らし続けるために、必要な支援を盛り込んだ個別の具体的な介護計画の作成を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援やケアを実施する中で気づきを視野にいれたものとなるように心掛け、工夫やアイデアが介護計画の見直しに反映出来るようにカンファレンスを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居される前と比べ本人様との関わり方が積極的に笑顔多くなってきた家族様がおられ、認知症に対するイメージが和らいでいるように感じられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	木原町の民生委員が行事に参加して下さいます。木原町の自主防災にも参加させて頂いて災害時の協力体制を整えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に希望される主治医にお願いしています。こまめに連絡、相談させて頂いて受診にも同行して状態を確認しています。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、基本的には、家族同行の受診となっていますが、状況に応じて職員も同行されています。普段の様子等の情報を伝え、受診結果についても共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による内服管理で状態変化に応じた看護が受けられるようにしています。状態の報告、連携も大切にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には情報提供を細かく行っています。お見舞いさせて頂く機会を出来るだけ作って情報交換につとめています。事業所内の医療関係と相談、連携出来る事を入院先の主治医にも説明させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の看取りの指針を説明させて頂き、入居者様や家族様の意向をふまえた上で終末に対する対応指針を定め、随時同意書にて確認しながら連携を図っています。	看取り指針に沿って、入居時から終末期の過ごし方について家族に意向を確認し、重度化した場合や終末期には、家族・かかりつけ医とカンファレンスを重ね、方針を確認する等支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回、全職員を対象に緊急時マニュアルを用いて勉強会の実施、又AEDを設置して消防署員の指導のもとで実践的に研修している。マニュアルは事務所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回入居者様と共に避難訓練を実施している。木原町の自主防災研修にも職員が順番に参加している。その内一回は炊き出し祭という形で実施している。回転灯を設置する予定です。	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回行くと、炊き出しを行い、地域の協力体制の構築に向けて努力されています。食料等の備蓄もなされています。	夜間を想定した訓練の実施と、職員だけの誘導には限界がありますので、地域住民等との連携を図り協力体制を築いていく取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に守秘義務の同意をとっています。カンファレンスでも定期的に周知徹底をして日頃の関わりでもプライドやプライバシーに配慮しています。	一人ひとりの人格の尊重に配慮した言葉掛けや、援助が必要な時もさり気ないケアを心がけて対応されています。入社時を始め、研修会やカンファレンスを行い徹底が図られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	待つという姿勢で聞かれた質問にゆっくり傾聴して本人様の意思に沿うように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	他利用者様に迷惑だったり健康を害するような予測がつくのであれば、希望にそえるような支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の支援のなかで身だしなみやおしゃれに笑顔がみられるような声掛けを大切にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事を全介助で摂っておられる方でも職員は同じ内容の食事をいただきながら声掛けをさせていただいて少しでも食べる楽しみにつながるように心掛けています。	ホームの畑の野菜等旬の食材や新鮮なものを採り入れ、買い物、調理、準備、盛り付け、片付け等利用者と共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を確認しています。10時、15時にも水分補給しています。又肥満傾向の方には主食を少な目にして副食(野菜)を増やして対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを全員行っています。義歯の方はスポンジブラシ、うがいに対応しています。夜間、入れ歯洗浄剤で洗浄しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄間隔の把握に努め、個別に対応しています。昼と夜で対応を変えたりするなどの支援も行っています。	排泄チェック表を記録し、時間を見計らって誘導する等排泄パターンに応じて自立に向けた支援をされています。トイレでの排泄を大切にしながら、リハビリパンツ類も本人に合わせて検討されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の確認は各利用者様とっており、医師、看護師と連携の上で対応しています。介護の方でも寒天を使用したおやつ、ヨーグルトなどで気を配っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の意向、体調を考慮しながら時間帯にも気を配りながら入浴して頂いています。体調によってはシャワー浴、足浴も併用しています。	曜日、時間帯は一応の取り決めはありますが、希望があれば柔軟に入浴支援できるように努力されています。身体機能の低下が見られても入浴を楽しめるよう、リフト等を設置する工夫もされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間ともリラックスして頂ける時間をできるだけ大切にしています。全体の消灯時間はありますが時間を気にせず安楽に生活して頂けるように声掛けしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンスで適宜、薬の説明を行い、理解を深めて頂けるように努めている。個人ファイルにも薬局で頂く処方説明プリントを保管しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や家族様からの情報提供、日々の関わりからの気付きを大切に、楽しみ、役割、張りのある毎日を送って頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出困難な利用者様であっても天気の良い日を選んで外気浴して頂いています。	利用者の希望に沿って、戸外での日光浴を始め、散歩、買い物等日常的な外出の他、家族の協力を得て、外食や墓参り等にも出かけられるよう支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居される際に家族様と御相談させて頂いてから対応を決めておりますが自己管理が困難な方は管理を職員が行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者宛てに様に届いた手紙は代読をさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内敷地や時には近隣の方から頂いたお花などを飾ります。換気に気を配り感染対策までも意識して季節に応じた心地よさを感じて頂けるようにしています。	バリアフリーで、リビングは適度に明るく掃除が行き届き清潔感にあふれ、対面式のキッチン、畳の間や火鉢、各所に季節の花や飾り付けがされている等、馴染みの物、五感刺激や季節感及び利用者の動線にも配慮して居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアでも団らんをしたり食事をしたりする空間とテレビを観たり息抜きをしたりする空間を分けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様にも御協力頂いて出来る限り生活感があるお部屋になるように工夫して頂いています。	テレビや写真、タンス等思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。居室にはトイレを設置し利用者のプライバシーや動線にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の設備を十分活用して頂き、安全に生活して頂ける事で安心して頂けるように努めています。		